

令和2年度
動物取扱業責任者研修

「動物由来感染症」

研修の目的

- 動物取扱業者が飼育する動物に関連する動物由来感染症に、従事者及び消費者が感染することを予防するため
- 人と動物の共通感染症が発生したら・・・
↓
被害を最小限にとどめる知識が必要であるため

動物取扱業者の役割

- 的確な情報提供

人と動物の共通感染症についての正確な情報を身につけ、一般飼育者に感染症についての的確な情報を伝える

- 感染症の予防

日常的に動物の健康状態を確認
感染症を拡大させない

■ 動物取扱業者の責務

扱う動物又はその死体が感染症を人に感染させることがないように、

①「感染症の予防に関する知識及び技術の習得」

②「動物又は死体の適切な管理や必要な措置」

を講ずるよう努めなければならない。

講義内容

- 動物由来感染症とは？
- いろいろな動物由来感染症
(犬・猫・鳥・爬虫類・魚など)
- 動物由来感染症を防ぐには？

「人と動物の共通感染症」とは？

「人」にも「動物」にも感染する
同じ病原体の病気。
人獣共通感染症(Zoonosis)

「動物由来感染症」とは？

「動物」から「人」に感染する
病気の総称。

人と動物の共通感染症とは？



寄生虫病・細菌感染症・ウイルス病など
現在では特に重要なものでも200種類以上ある

伝搬経路

感染症の例

直接伝搬

咬傷

狂犬病

なめられる

パストツレラ症

引っ掻き傷

ネコ引っ掻き病

排泄物(経口)

トキソプラズマ症

咳・くしゃみ

結核
新型コロナウイルス感染症

間接伝搬

環境媒介

水系汚染
土壌汚染

クリプトスポリジウム症
炭疽

媒介動物

ダニ
蚊
ノミ
巻き貝

回帰熱・日本紅斑熱・SFTS
日本脳炎・デング熱・ジカ熱
ペスト
日本住血吸虫

動物性食品

肉
卵
魚・イカ

有鉤条虫症
サルモネラ症
アニキサス症

いろいろな動物由来感染症

- E型肝炎・・・生肉(特にイノシシ、シカ注意)
- エキノコックス症・・・キツネ、近年は犬でも確認
- オウム病・・・飼育鳥
- 狂犬病・・・主に犬から
- SFTS(重症熱性血小板減少症候群)・・・マダニ
- ダニ媒介性脳炎・・・マダニ
- つつが虫病・・・ダニ
- 日本紅斑熱・・・マダニ
- ライム病・・・マダニ
- デング熱・・・蚊
- ブルセラ症・・・家畜、犬等

赤字の疾病は
年々増加傾向

いろいろな動物由来感染症

本研修で紹介するもの

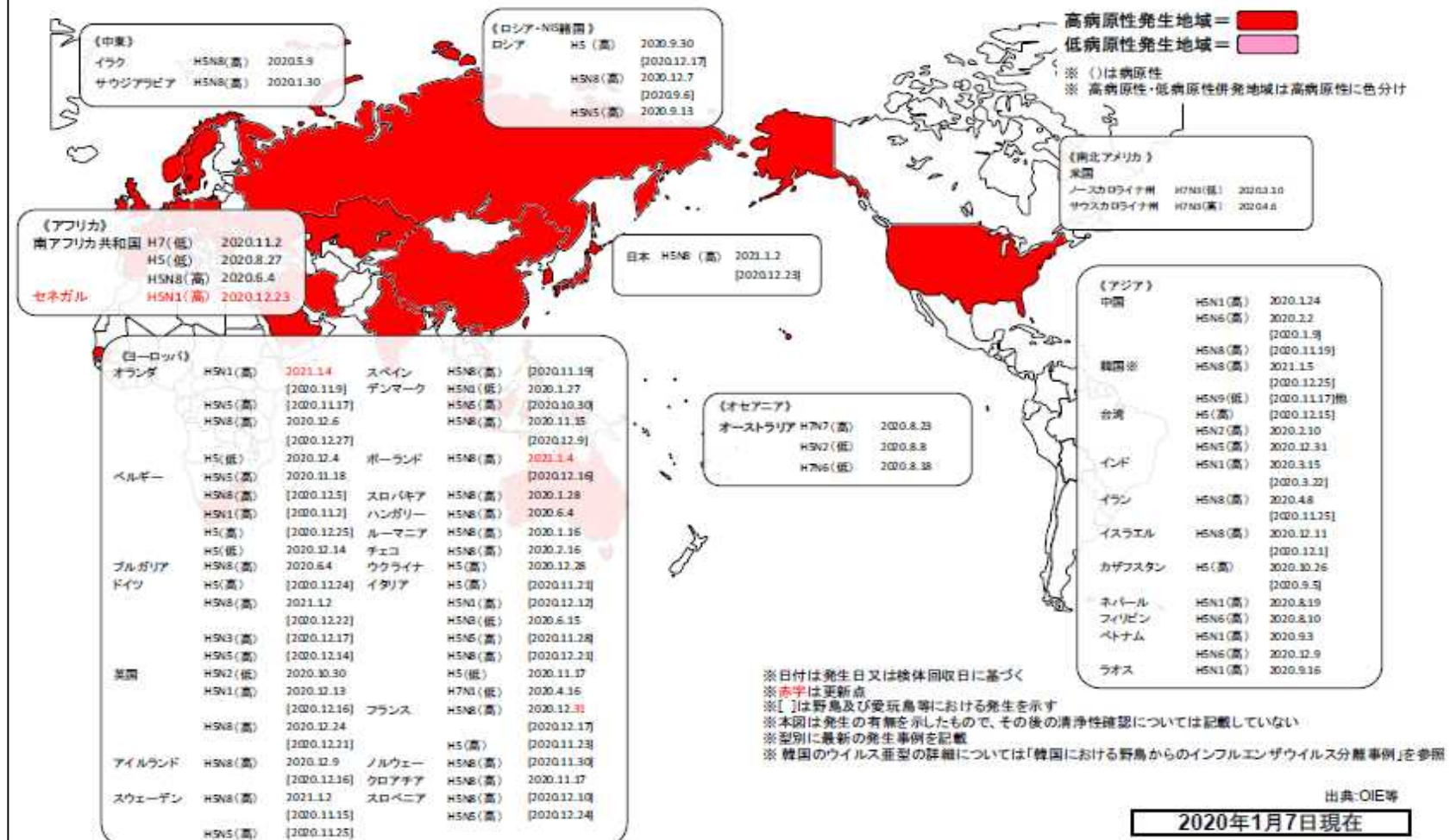
- 鳥インフルエンザ
- 新型コロナウイルス感染症
- 狂犬病

鳥インフルエンザ

- A型インフルエンザウイルスが引き起こす鳥の病気。
- 鳥に感染するA型インフルエンザウイルスをまとめて鳥インフルエンザウイルスという。
- 病原性やウイルスの型によって、高病原性鳥インフルエンザウイルス、低病原性鳥インフルエンザウイルス等に区別。
- 家きんが高病原性鳥インフルエンザウイルスに感染すると、その多くが死亡する。

鳥インフルエンザの世界での発生状況

高病原性・低病原性鳥インフルエンザの発生状況(2020年以降)



鳥インフルエンザの国内発生状況

- 令和2年度 34事例
(令和3年1月8日時点)
- 1例目は香川県三豊市(令和2年11月5日)
※その後も香川県は発生が続き、直近では
令和2年12月23日三豊市で発生
- 徳島県阿波市で発生(令和2年12月19日)

鳥インフルエンザの感染経路

- 感染した鳥の羽や粉末状になった糞の吸引
- 感染した鳥の糞や内臓に触れて手が汚染
→汚染された手から鼻へ大量のウイルスが入った場合

※体内に大量のウイルスが入ってしまった場合に、
ごくまれに人でも感染する。

※海外では、人へ感染したことが報告されている。

ペットの鳥を感染させないために

- 鳥インフルエンザウイルスを運んでくる可能性がある野鳥が近くに来ないように対策を。
- 鳥を飼っている場所はこまめに掃除し、糞はすぐ片付けること。
- エサや水はこまめに取り替えること。
- 鳥の体やフンに触れた後は、手洗いとうがいをすること。
- 口移しでエサをあげたりしないこと。

感染対策の徹底を！

高病原性鳥インフルエンザの 防疫の徹底を!!

飼育舎への野生動物の侵入を
防ぎましょう

★ ウイルスの侵入防止

野鳥、野生動物
(ネズミ、アライグマなど)による
侵入防止を徹底しましょう

人、車両等による
侵入の防止に努めましょう

飼育舎周辺を整理し、
消石灰の散布、防護設置の設置、
防鳥ネットの点検・補修を!

飲み水、飼料による
侵入防止に努めましょう!

🐔 飼養管理と理解の醸成

- 飼育舎内外の整理・整頓・清掃に努めましょう
- 飼育している鳥の健康管理と適正な飼養羽数に努めましょう
- 飼育している鳥の糞の処理(十分な発酵、処理施設に防鳥ネット)に努めましょう
- 鳥インフルエンザに対する理解と知識の取得に努めましょう

全国家畜畜産物衛生指導協会
☎ 03-6206-0832

ペットの鳥を高病原性 鳥インフルエンザから 守りましょう

～家族であるペットの鳥が、いつまでも元気で健康であるために～

毎日鳥をよく観察し
衛生的な飼育管理を
しましょう

物の鳥との接触や
飼育場所への立入を
避けましょう

ペットの鳥が連続して死亡するなどの
異常があった場合は、お近くの家畜保健衛生所、
市町村役場、動物病院に
ご連絡・ご相談下さい。

(独)農畜産業振興機構 (社)全国家畜畜産物衛生指導協会

鳥インフルエンザウイルスを 蔓延させないために

- 鳥インフルエンザが発生した現場に近寄らないこと→知らず知らずのうちに鳥インフルエンザウイルスが発生現場から他の場所へ持ち運び、感染を広げてしまうおそれがある。
- もしも鳥インフルエンザに感染している鳥、感染が疑われる鳥と接触した後に、突然の高熱や咳、全身のだるさ、筋肉痛などインフルエンザを疑う症状が現れたら、近くの保健所に相談し、前もって医師に連絡を入れてから受診すること。

野鳥が死んでいるのを見つけた場合

- 野鳥も様々な原因で死亡する。(衰弱、環境の変化)
- 鳥インフルエンザウイルスだけでなく、様々なウイルスや細菌、寄生虫から感染を防ぐ事が必要。
- 死亡野鳥を発見したときは、感染しないため、素手で触らないこと。
- 死亡野鳥への県の対応フリーダイヤル
- (0800-200-5444)※昨年12月9日設置
- 死んだ鳥の処分の仕方については、各市町村担当窓口に相談。

新型コロナウイルス感染症

- 2019年12月中国で原因不明の人の肺炎が発生し、原因ウイルスが新型コロナウイルス(SARS-CoV2)と特定された
- 発生源は不明だが、動物由来と考えられている→動物由来感染症のひとつ
- 日本での感染者数20万人超、**パンデミック(世界的な大流行)**
- 人から人への感染が主で、手洗い、マスクによる飛沫防止で予防

新型コロナウイルス感染症に 動物は感染するのか？

- 感染した人との接触により、動物が感染すると考えられている
 - ミンク、猫科動物(猫、トラ)、犬で感染の報告あり
- 感染が疑われる者は動物を扱わないように。

飼育者自身が感染予防を徹底するのが最重要
家庭で感染者が出た場合は別の者が世話を

新型コロナウイルス感染症の ペット対策

- 動物の体表にウイルスが付着している場合
→動物をシャンプーすれば除去・不活化できると考えられています

- ・ 預かり動物等のシャンプーをする際は、水が飛び散らないように注意する
- ・ 使用したタオルは通常の洗濯でOK

狂犬病

私たちは君を忘れない

— 日本にも狂犬病がまん延していた時代がありました —



世界では今なお毎年55,000人も命が狂犬病で失われています
狂犬病で亡くなる人のほとんどは、犬に咬まれて感染しています

狂犬病は予防できる感染症です。

犬の飼い主は、

- ① 市区町村にあな犬を登録しましょう。
- ② 狂犬病予防注射を毎年受けさせましょう。

- 狂犬病は、人を含むすべての哺乳類が感染します。
- 世界のほとんどの地域で発生している感染症で、特にアジアでは、ほとんどが犬に咬まれることによって人が狂犬病に感染しています。
- 狂犬病は予防できる感染症です。現在、国内における狂犬病の発生はありませんが、海外からの侵入に備え、日頃から予防しておくことが大切です。
- 狂犬病に関する詳しい情報は以下のホームページをご覧ください。

厚生労働省：<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou10/07.html>

国立感染症研究所：<http://idsc.nih.gov.jp/iasr/28/325/inx325-j.html>

狂犬病の発生状況

欧州地域

アゼルバイジャン 12人
 ジョージア 8人
 カザフスタン 4人
 キルギス 9人
 ロシア 7人
 タジキスタン 30人
 トルコ 94人
 トルクメニスタン 9人
 ウクライナ 11人
 ウズベキスタン 11人

中東地域

アフガニスタン 557人
 ジブチ 1人
 エジプト 25人
 イラン 18人
 イラク 43人
 ヨルダン 1人
 リビア 11人
 モロッコ 51人
 オマーン 8人
 サウジアラビア 5人
 シマリア 679人
 スーダン 892人
 シリア 18人
 チュニジア 2人
 イエメン 165人

アジア地域

ブータン 5人
 北朝鮮 8人
 ネパール 357人
 スリランカ 24人
 タイ 16人
 カンボジア 190人
 ラオス 217人
 モンゴル 3人
 ベトナム 360人

中華人民共和国
 2635人

ミャンマー
 681人

フィリピン
 592人

インドネシア
 1113人

パキスタン
 1623人

インド
 7437人




バングラディシュ
 1192人

アメリカ地域
 ボリビア 35人
 ブラジル 15人
 ドミニカ共和国 4人
 グアテマラ 4人
 ハイチ 229人
 ペルー 7人

アイスランド
 スウェーデン
 ノルウェーの一部
 アイルランド
 英国の一部

日本
 ハワイ諸島
 グアム
 フィジー
 オーストラリア
 ニューージーランド

アフリカ地域	コンゴ共和国 18人	ケニア 172人	ルワンダ 50人
アルジェリア 67人	コートジボワール 412人	レソト 15人	セネガル 12人
アンゴラ 458人	コンゴ民主共和国 752人	リベリア 29人	シエラレオネ 127人
ベナン 47人	赤道ギニア 12人	マダガスカル 226人	南アフリカ共和国 58人
ボツワナ 2人	エリトリア 66人	マラウイ 44人	南スーダン 365人
ブルキナファソ 305人	エチオピア 4169人	マリ 283人	スワジランド 7人
ブルンジ 278人	ガボン 3人	モーリタニア 20人	トーゴ 61人
カメルーン 203人	ガンビア 7人	モザンビーク 325人	ウガンダ 360人
中央アフリカ共和国 48人	ガーナ 100人	ナミビア 3人	タンザニア 383人
チャド 861人	ギニア 283人	ニジェール 790人	ザンビア 129人
	ギニアビサウ 19人	ナイジェリア 3501人	ジンバブエ 36人

 狂犬病発生地域(死亡推定者数100人以上)
 狂犬病発生地域(死亡推定者数100人未満)
 厚生労働大臣が指定する狂犬病清浄地域
 (注) 報告のない国については死亡者数100人未満の国とみなしている。

狂犬病



- 狂犬病ウイルスの感染による「動物由来感染症」
- 有効な治療法は無い。発症すれば、ほぼ100%
→感染後の発症を防ぐため、感染後すぐにワクチン接種
- 人が咬まれて感染してから発症までの期間は1～3ヶ月
- 日本国内では、人で1956年、動物で1957年以降の発生が報告されていないが、2020年フィリピンで犬に咬まれ帰国した1名が死亡
- 2013年7月台湾で52年ぶりの狂犬病発生（発見）

★アジアでの人への感染源動物は98%が犬

狂犬病の症状（人）

○前駆期：

発熱、食欲不振、咬傷部位の痛みや搔痒感

○急性神経症状期：

不安感、恐水及び恐風症状、興奮性、麻痺、幻覚、精神錯乱などの神経症状

○昏睡期：

昏睡（呼吸障害によりほぼ100%が死亡）

狂犬病を予防するには…

- 飼っている犬には、毎年必ず狂犬病予防注射を接種しなければなりません。

犬の登録(生涯1回)と、
狂犬病予防注射(毎年1回)は、
狂犬病予防法で義務づけられています。

もしも、狂犬病が国内に侵入しても、

「国内の犬の7割以上が、予防注射を受けていれば蔓延を防げる」と言われています。

理想は100%
接種

徳島県内の狂犬病予防注射接種率

令和元年度 約63%

(接種頭数25,265頭／登録頭数39,687頭)

接種率は年々低下している。

Q. なぜ日本では狂犬病の予防注射を毎年接種するのか？

日本では、国内での発生を撲滅するために、年に2回の犬への狂犬病ワクチン接種を義務化していましたが、一定期間発生が見られないことから、年1回の接種に変更されました。(昭和60年)

ワクチンによる抗体付与は、1回では十分でなく、また個体差もあります。

日本では、万が一の場合に備えて、より多くの犬に確実に抗体付与ができるよう、毎年の接種を義務化しています。



世界各地で狂犬病が発生している

日本でも、いつ狂犬病が

発生するかわからない・・・！



動物取扱業者として、

犬の登録

狂犬病の予防接種

を必ずしなければなりません

動物由来感染症の予防

感染経路対策

- 飼育環境整備
- 動物との距離の確保
- 蚊、ダニ、ノミ等の害虫対策
- 動物のしつけなど



動物由来感染症の予防

動物対策

- 動物の健康保持、ワクチン接種、駆虫
- 動物の適性に応じた取り扱い
- 輸入動物対策
- 動物感染症の疫学調査・監視活動など



動物由来感染症の予防

動物の体調の管理

- ・元気があるか
- ・食欲があるか
- ・鳴き声、呼吸の状態は正常か
- ・せき、くしゃみをしていないか
- ・毛ツヤはよいか
- ・目ヤニ、鼻水等はないか
- ・排泄は正常か
- ・発熱はないか

異常時

- ・健康な動物と隔離
- ・動物病院に相談
- ・施設の清掃消毒

動物由来感染症の予防

人対策

- 衛生習慣の改善
- 動物由来感染症に関する知識の習得
- 個人の健康管理
- 動物由来感染症情報の提供
- 行政等による情報提供、啓発



動物由来感染症のリスク要因

低

危険性(リスク)

高

動物側の要因

- | | | |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">・健康状態が良好・性格が温厚・清潔である・予防注射済み・駆虫している | <ul style="list-style-type: none">・拾い食いをする・屋外を自由に行動する・トイレのしつけがされていない | <ul style="list-style-type: none">・健康状態が悪い・糞尿などが体毛に付着している・寄生虫がいる |
|--|--|--|

人側の要因

- | | | |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">・必ず手洗いをする・そうじで手袋やマスクなどを着用する・不調の場合は医療機関に受診する・健康な成人(高齢者を除く)である | <ul style="list-style-type: none">・一緒に寝る・動物がいる部屋で食事をする・飼育環境が不潔・高齢者・幼若者である | <ul style="list-style-type: none">・同じ食器を使う・口移しで餌を与える・口周りをなめさせる・手洗いをしない・一緒に入浴・触った手で食事する |
|---|--|---|

消毒の種類について

消毒

物理的消毒

流水・熱湯消毒・煮沸消毒・蒸気消毒
紫外線消毒、等

化学的消毒

消毒剤による消毒

煮沸消毒

煮沸消毒

100°C、10分以上で煮つづけることで効果がある。

注意点

熱に弱い素材には使えない。

お湯をかけながら洗う

熱湯消毒

80°C、5秒以上かけつづけることで効果がある

注意点

温度が維持できない
熱に強い菌やウイルスも存在する

動物取扱業施設で使いやすい消毒剤①

界面活性剤

一般細菌に有効、殺菌力は強くない

注意点

別の消毒剤が残留している状態で使うと
化学反応が起こって効果が減ってしまう。

用具、器具への使い方

汚れを落とし、十分にすすいだのちに、
薬剤を希釈(0.05~0.2%)した液に浸した布でふく。

動物取扱業施設で使いやすい消毒剤②

アルコール系

すぐに乾くので、手指の消毒をはじめ広く使える。

注意点

ゴム製品や合成樹脂など変性する場合がある。
アルコールであるため引火性がある。

用具、器具への使い方

布や脱脂綿に十分にアルコールを含ませてふく。
表面が十分に濡れる程度に噴霧し、自然乾燥させる。

動物取扱業施設で使いやすい消毒剤③

次亜塩素酸ナトリウム

ウイルスにも効果がある

注意点

金属を腐食させてしまう。
酸性になると塩素ガスを発生させる。
汚れがあると効果が著しく低下する。
漂白作用がある。

用具、器具への使い方

汚れや洗剤を十分におとし、噴霧・布でふく
布類は、つけ置きができる(漂白注意)

消毒のポイント

- 消毒薬は「汚れを落としてから」。
- 消毒剤の使用温度は「室温」で。
- 消毒剤の「有効期限」に注意する。
- 消毒剤の用途、使用方法には十分に注意する。

動物取扱業者の役割

☆人と動物の共通感染症についての
正確な情報を身につけて

一般飼育者へ

「感染症についての的確な情報を伝える」

ことが求められます。